

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 金原明子

本研究は、日本に住む精神疾患をもつ人のパーソナルリカバリーのプロセスの構成要素とその促進因子について、精神疾患をもつ人のインタビュー調査で得られたナラティブデータとその質的分析を用いて、その構成概念と促進因子を検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. リカバリー体験の構成要素としては、西洋で行われた先行研究では強調されなかった「他者への共感」や「社会規範によって形成されたものではないアイデンティティの再形成、再定義」が新たに得られた。
2. テーマの出現数では、「つながり」の出現数が最も多かった。
3. リカバリープロセス尺度の高得点群では、家族やピアとの関係性や家族やピアからの支えが具体的に語られていた。
4. リカバリー体験の促進因子で、先行研究で得られなかった項目は「小児期のポジティブな体験(positive childhood experiences)」であった。

本人中心の支援 (person-centered care) の原則や、精神疾患をもつ人の主観を深く理解・重視し支援していくという国際的な流れの中で、日本の文化、社会、医療の中で生きる人たちのパーソナルリカバリーやその促進因子に関する本研究で得られた知見は医療・支援に役立つ。また、本研究の知見は、精神疾患を経験した人の特殊性も反映されるが、疾患の罹患やなんらかの困難な経験を経験した人に共通する一般的な内容や、疾患の有無と関わらず、Well-being や人が生きることについて、示唆を与え、精神医療の枠に留まらない「人の生活」「生きづらさ」に示唆を与える重要な知見となる。よって本論文は博士(医学)の学位請求論文として合格と認められる。